愛珠

想い出ずるままに（十五）

中村道子

一　学校監査を受く（二）

翌日は職員全部が、昨日の電話連絡のとおり午前十一時に集合したので、私はうれしく思った。

それで皆の顔を見て笑いながら、「折角のお休みに来てもらって、お気の毒でしたなア！　ご苦労さんでした」といった。

一同が職員室に集まるまでには、昨日の日直者から、ちょいちょい聞いていたらしく、昨日来園せられた、愛日小学校の伊達教頭から聞いた話の大体を知っていたのである。

全職員の顔がそろった時、私は皆に声をかけて、「皆さんご苦労さんでした!!　折角の休みを無にしてすみませんでしたなア!!　今日の話の大体は聞いてくださっていると思いますが、昨日伊達先生の話では、愛日校の次に愛珠が監査を受けることになっているので、早く知らせてあげた方がいい、といわれたから来ました。それで愛珠が二番目ですと。そうでしたか!!――それは校長先生のご親切はありがとうございました、どうぞよろしくお伝えしてくださいませな!!――それで最初が愛日で、次が愛珠になりますと。―最初は誰でも注意して見ているから、なかなか責任が重いですなア、お互いに落度のないようにいたしましょう!!　それにしても、こんなことの経験は始めてですから、先生ご面倒をかけてすみませんが、くわしく教えてちょうだい!!　と、伊達先生にその現場のありさまを根掘り葉掘りたずねたが、結局『先方

からたずねられた通りを、忠実に返答できればいいのであって、むずかしいことはない』と分かった。

ここまでは昨日のことでしたが、この有様から考えて、――それなれば一日でも早く皆さんに来てもらって、これを伝えてご協力を得、事務の整理をお願いせねばと思ったので、休日だったけれど来てもらったような次第ですので、あしからず堪忍してちょうだいな!! それで仕事の段取りを考えて、取りかかってもらった方が、ゆっくりしてお互いに安心だと考えたから、昨日電話で連絡をしたので、平素の通りしていてくださっていれば、別に大した違いはないと思ったから、私は割合に気をつかっていません」

話がとぎれたところへ、原校務員が顔を出して、大吉がお弁当を持って来ましたといって来たから、「ここへ持って来て、机の上へ置いてあげてちょうだい!! それから台所の人たちにも、分けてあげてちょうだい、皆がすんだら帰ってもらってよろしいで――」「ハイ!! 」

「皆さんここらでお弁当にしましょう!! 平素は子どもらがいるから、落ち着いていただけませんから、今日は水入らずで、ゆっくり、話しながらいただきましょう!!」「原さんはすまないけれど、ちょっと手伝ってもらって、持って来てあげてくださいな」。食事の用意が全部できあがると、久方振りの会食で、全部思い思いの話で楽しく過ごすことができた。

食事は終わったが話に花が咲いて、何時までもにぎやかに、皆で話し合って笑った。そしてこの間に、帳簿の話も出かけたらしいが、すぐとぎれて消えてしまったらしい。

一同の食事が終わったから、「今日はこれで解散にしましょうか、突然に出て来てもらってすみませんでした。――用事の都合で帰りたい方は、もう帰られてもよろしいで!! けれども区切りまでしたい方は、していてくださってもけっこうでして、自由解散にしましょう!! ただお願いしておきたいのは、私たちが、今もっている自由の時間は、愛日小学校の調査の期間であって、このちょっとの間――ほんのしばらくの間――それが愛日小学校の調査の時間であって、それがすむと、盆も正月も一緒に来たように忙しくなるから、ここ二三日の間の余裕をみておいて、仕事にあたっておいてちょうだいや!! お願いしますで!!」といい終わると、倉庫の方へ歩きながら、漸次歩を早めていった。

翌日は、平素より早く職員一同は出勤し、私が幼稚園に着いた時には、一同の顔はそろっていた。

看護当番は運動場で、さかんに子どもらと遊び、非番の者

は席にいて、懸命に帳簿の整理に、忙しそうであった。しかし始業時間が間近くなると漸次仕事を中止して、運動場の方へ出て行った。この日私が最後であったから、こうした折からに遅く来るとは申し訳ないと思って、心中深く詫びたのである。

朝会が終わると各組は時間割通りの設定保育に移ったので、私は自席に帰り、昨日調べかけた倉庫の茶櫃にあった什器を、再び点検して台帳と照合した。昔の遊具でいずれもよく合っている、ついで手近な物を次々に取って調べてみたが、台帳にもよく手入れがしてあったからたのもしく思った。

二　日々の登園と放課後の集合地への送迎

三時の終了の鐘がなって、幼児の退出を知らせてきた。今日の保育が終わったのかと、放たれたような気安さを覚えた。

子どもたちも同じだったろう!!　声の響にも、それが感じられる。これで今日の保育も終わったと思う間もなく、方々から子どもらの足音や、動作の響が、がやがや聞こえてきたが、屋内運動場にすでに並べられていた各組の、組名と同じ色旗の前に、平素の通り先頭が立ち、順次二列縦隊になって全体が出そろった時、平素聞きなれている進行曲が響き始めた。

(1)　南組

先頭は自分の前の旗を持って正門まで進み、南組は門から丼池筋を通って、高麗橋・伏見町・道修町・平野町と、四つの町角を通り過ぐし、平野町では角から二軒目にあった西村君の家の前を集合地としていたから、一同がそろった時、指揮当番の保母から、歩道での注意を受けて解散した。

(2)　北組

一方幼稚園舎の反対、すなわち北浜にあった集合地は、距離からいえば南組の約三分の一であったが、ここは電車通りで、しかも自動車の往来が激しかったので、看護の注意には一瞬も目は離せられないから、「梅田行きの電車が来ると、待っていてくださいね」と残りの幼児にいい、堂島方面へ帰る男女児四人を先に、せんだんの木橋停留場から乗車させる。この向う側にあるバス停留地から、今まで待っていた玉造行きのバスが、ようやく来たので、気構えをして車の止まるのを待ち、残りの幼児三人も指揮者の側に寄って来て、三人が乗車する間に、「この三人を終点で降ろしてくださいね!!」「迎えの者は皆終点におります!!」女車掌の「ハイハイ!」という返事の声を聞くと、車から離れて時には手を振って別

れることもあるが、この時指揮者の顔に、初めて安堵の色が見えるのであった。

(3) 東組

愛珠園舎の南北両方面にある幼児集合地はすぐ決定し、東部堺筋の集合地は今橋筋と高麗橋筋にはさまれる両の裏通りに当たる一間幅のいわゆる浮世小路で、この道を約三丁ほど東へ進み、堺筋に出る手前に形ばかりのあき地を得たので、ここを集合地ときめ、東部方面から来る幼児や、二間ほどの距離をあけていたバス停留場を利用して、曾根崎や天満方面から来る幼児たちは、皆ここを利用したのである。

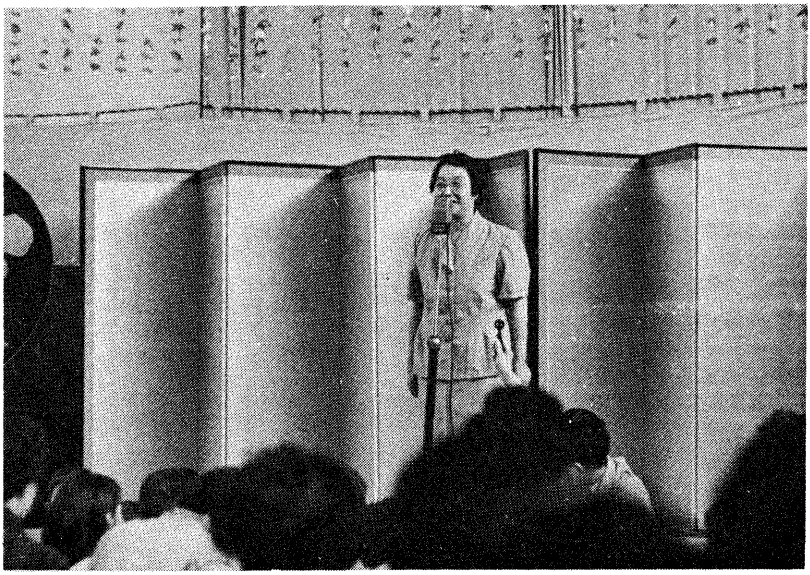
(4) 西組

大阪市の代表道路として、よく御堂筋があげられるが、愛珠幼稚園の西部にあるこの道路を、東西に渡るにはずいぶん思案した。なにしろ広くて大きいこの道路は、梅田駅からつづいた、堂島・船場・島の内・難波間につらなる大小の商家の広い区画を、四十間幅の直線道路で、串ざしにつないだ広大なもので、道路の中央を自動車専用道とし、しかもこの地下には急行電車が南北に走っている。路面には電車の交通はない。

中央を走る自動車はいずれも皆、地下と同じように南北に向かって走り、その車数は多かった。この自動車専用道の左右両側には、二間幅をとって、木煉瓦を敷き詰めた一般用の車道も作り、これには自転車やオートバイや三輪車が走り、中央にある自動車専用道と一般車道の区別を明確にするために、この二つの間に一間幅の路地を難波まで作って、この中にほどよく間隔をとっていちょうを植え、木煉瓦の一般車道から半歩上がって、二間幅をもつコンクリートでたたんでの人道も作って民家に通じさせ、ここにも同じようにいちょうを植えていたから、夕景には夕陽がはえ、その上薄青い照明燈の輝きを添えて一層美観が疲れを休ませた。

ことにうれしかったのは、各区画の中にある重だった要所の筋には、東西に通行する人たちのために、信号器を設備して、市民の安全をはかることを忘れなかったのである。

昔から愛珠幼稚園には学区内だけでも通園児数は相当多かったが、太平洋戦争が終わってからは逐次在籍数が増加するのでうれしく思っていた。それは終戦前からあった愛珠幼稚園の西部に位置していた江戸堀・西船場・中の島等の学校区があって罹災していたのが、漸次復興して健康な適齢児が、三々五々各区にあり、友だち同志が相寄り連れ立って入園してきたから、それだけ復興した現われとて喜んでできる得るか



ぎり希望者は皆許可していたから、在籍数は増加をみるばかりで、しかもこれらの幼児は、乗車の必要はなく、御堂筋が通過できれば、その後は全部徒歩の可能な者ばかりであったので、希望者を全員無事に渡らせればよいのである。車数の多い広い道路を一せいに通過させることは、相当の注意と苦心が必要であることは、誰にも分かっていた。しかし元気のよい活発な保母さんも、この指揮にはすぐ返事はできかねたし、男子の校務員はしばらくためらっていたから、「この指揮は私がもちます。おじさん、すみませんが、駈け足におくれた子たちは両手を左右にひろげて、抱くように『早く早く』と先頭に向かわせ、優しく追ってちょうだい!!」「私が赤旗を持って、正門から二列縦隊で右側寄りに日本生命の事務所の窓下に行って、二列を順次三つに切って六列に並べて縮めると、この長さが二間ほどになると思いますから、その六列全部が並んだままであの人道のはずれまで私と共に進み、淀屋橋の北方にある南方行き止まれ!!　のベルが鳴ると、同時に赤旗を持っている私と幼児一せいに西方に向かって走り、私は道路の中央に北を向いて止まり、幼児はそのまま私の替りの指揮者と共に西部にある人道も渡ってから、すぐ今橋通りの南側板壁の前に、六列で並んで指揮者から通行の諸注意

を受けるころに、私は赤旗を下に降ろして、北方から来る自動車にちょっと会釈してすぐ駆け足で幼児の後を追い、互に幼児と—さようなら—のあいさつをして一同別れることにしましょう!! 」と約束したのである。

御堂筋通過の説明が終わると、一同はよく理解したらしいので、いよいよ実施に移った。校門から御堂筋の前で分列し、人道で全員停止し、淀屋橋の信号が、南方停止の合図の信号に変ると同時に、幼児一同は私と共に西方に向かって駆け足でまっすぐ道路を西方に渡り、この間に私は一人中央で赤旗を高く持って北方に向かって立ち、次の方向転換の合図のベルが鳴ると赤旗を降ろして、南方に向かって進んで来た自動車に時に会釈して幼児の後を追うが、そのころには全員の幼児はすでに道路を全部渡って、淀屋橋南側の板壁の前に止まったところで私はゆっくり子どもたちに別れのあいさつができ、じょうずに道路が渡れましたな!! とほめる余裕もあってうれしく思った。

今日初めての試演を事故なく遂行できたことは、全く職員全員ならびに幼児の熱意のたまものであったと深く感謝すると共に、今後も心して実施しようと決心した。

職員一同が無事に幼稚園へ帰った時、異口同音に喜び合った。この時二人の校務員は笑いながら、「明日から台所の者二人が交替で、御堂筋西の、今日解散した今橋西の板壁の前に立って子たちを待ちますわ、そして五、六人たまったら東の日生の所まで送って、それから各自幼稚園へ来てもらいますわ!! 」「大丈夫かしら? 」「朝は多勢かたまって来はりません、送ってもろうて来る子たちも多勢やし、皆ばらばらで、平野町の信号で来る人たちや、淀屋橋の信号で来る子たちもありますよって、おおかた淀屋橋筋を通る子どもさんらは帰る時の三分の一ぐらいですわ!! なァ岩井さん!! 」岩井校務員の力強いうなずきには私も安心して、今後私が退職するまでこのことは続いた。しかしたまたま私が出張して不在の時には、日直者が替ることとしたが、幸いにも事故の無かったことを、今なお感謝しているのである。

三　学校監査を受く　㈡

原校務員が職員室にはいって来て、「愛日学校の会計監査は無事にすみましたそうで、今度はいよいようちですな!! 」ちょっと心配気にいっていたが、「愛日は事故なくすみましたそうで——」「そう良かったわなァ!! 校長先生はじめ、先生方もやれやれすんだと気安く思うていられることでしょ

う!!」「愛珠も愛日にあやかって無事にすみとおますなァ、生意気みたいなけれど――」「ほんと私もそう思いますわ」

こんなことをいっている時、役所の公務員が来て「愛珠幼稚園の監査は明日九時より始める」ことを知らせて去った。封書通知である。

「原さん監査はいよいよ明日ですと、今知らせが来ましたで!! それで場所は、応接室とその隣の襖戸を開いて一室のようにして、両方のテーブルを続けて、応接室にあった分には、役所の先生方にかけてもらい、つけたした方のテーブルには、台帳や書類一式をのせるようにしますわ!! その後は先生らが事務のとりやすいように直されるでしょうから、おまかせしておきましょう、男の人たちにもこのことを知らせて、物のおき場にも、それから掃除にも念を入れてもらっておいてちょうだいや!! それからここの先生らには、また私からめいめいに頼みますわ!!」「ハイ!!」

放課後には例の通り、東・西・南・北の各方面にある幼児集合地へ送って行った人たちが、職員室に集まった時、一同の顔を見ながら「お帰り!! ご苦労さんでした!!」と笑顔でねぎらい、「調査はいよいよ明日ですと、九時から始められるそうで、さっき市役所の小使さんが使いにみえていわれたから、皆に今一息ご苦労を、願わねばなりませんが、頼みますわ!!」といって笑顔を向け、待つより早くすんだ方が心やすいとひとりごとをいった。

「明日役所から先生たちがみえて『保育科の徴収係の人を呼んで来てください』と原さんがいわれたら、すぐ小畑先生を呼びに来て上げてください、小畑さんはすぐ応接室に行って、積み上げてある台帳の中から、保育料徴収帳簿をとって、先生に渡して見てもらい、決算書の所を開き、区役所への納入日をさして係の方の認印も合せて見てもらってください。これがすんで、公費の係の人といわれた時には、皆も知ってられるように、石賀先生を呼び、石賀さんは職員の給料支給明細簿を開けて、尋ねられるままに説明し、ついで校費に関する幼稚園備品購入出納簿を開いて、前回の通り、問われるままに返答し、『ちょっと貸してください』といわれたら躊躇せず、渡してしまいなさい、そして尋ねられるままに、どんなことでも、何でもはらはら返事することなく、明快に返事することに注意してちょうだい!! 分かりましたか」「ハイ!!」ついでPTA会費徴収簿や、同じくPTA費購入簿、校費とPTA寄附台帳の二部、幼稚園図書台帳およびPTA図書台帳の二部も、校費と、PTA消耗品費の出納の明細簿

等も、係員と帳簿とを三部突き合わせて調べられるから、落ち着いて受けてくださいよ、愛日校の時もこの通りでしたと!! 正しかったら心配は不要で、平常やってくださっている通りであれば心配は無用です。お願いしますわ!! 」一同はしばらく保育室の整理をしていたが、「用事がすんだら、今日はもう帰ってくださってよろしいで、明日は皆さんに緊張してもらわねばならぬから――ゆっくり休んでちょうだいや!! 」、別れのあいさつが終わると帰宅の用意を始める人もあり、また帳簿を出して再び見直す人もあって、區々であったが私は自席に腰をおろし、明日は無事故で仕事を終えたいと、順を追って反省しかつ祈念して帰宅した。

翌朝午前九時近くになったころ監査の先生が三人みえて、受付の校務員に何か話されている姿が見えたから走り寄り、朝のあいさつをすますと、今日のご苦労を謝し、今回の仕事の指導をご一同に願いながら、応接室へ案内した。三人のお顔は皆始めての方であって、これまでに監査の方にあうことはなかったのである。原校務員の持参して来た、お茶を召しあがると、早速私に「保育料の係の人をここへ呼んでください」といわれたから、返事と共に席を立って保育室の方へ小畑保母を呼びに行き、小畑保母は応接室の方へ行った。私は自席に座して安否を案じた。

しかし心配はしなくなった。順次に呼ばれて、それぞれ応接室に行ったが、誰も不安な顔は見せずに笑顔で出て来たから、私は安心していた。正午少し前に「調査は大部分すみましたそうでっせ」といって、岩井校務員が知らせてきたから、私は安堵して息をつぎ、原校務員の所へ行って昨日依頼していた昼食のお弁当を調べると、質素であったが清潔の感じがしていたのでこれも安心し、テーブルの上に配膳するころには、すでに帳簿類は片付けられて別室においてあった。

係長を中心にして左右に若い方二人が座して、話しながら食事をとっておられた、時々原校務員が、お茶や吸物を持参していたらしいが、根をつめて調べられたと見え、肩がこったとて一人が軽くたたいておられたと、いっていた。

食事がすんで運動場へ出て来られた時、私は「お疲れでございましたでしょうねェ!! 」と、先生方にあいさつすると、係長先生は「園長さん心配はいりません、皆よくやっておられますよ」とほめてくださった。「そうでございましたか、ありがとうございました」といった時、二人の若い先生は笑いながら「今度の備品の時には園長さんのたこをつりますで――」「恐いですな!! お手柔らかにお願いしますわ!! 」

と笑っていった。しばらく子どもらの遊ぶ姿を見ておられたが、再び応接室に帰られて、備品係の人を呼ぶようにいわれたから、幼稚園備品係の者と、ＰＴＡ関係の備品係を呼ぶと、二人はその後を追ってはいって行った。

テーブル一つで同じような器物を調べられるには、話し合いが耳ざわりになるといけないと思い、私は窓越しに中の有様を見ると、二人の席は離して一方は準備室を使っていたから良かったと思った。それからしばらくすると梶尾保母が職員室に来て、「フランス焼の菓子器を持って来るようにいわれたので、倉庫の中段を調べたところ有りませんので、あちこちを捜しましたがどうしても分かりませんから、園長さんに尋ねたらと思って来ました」といわれたから、私は「フランス焼菓子器？」と二、三度くちずさみながら、ふと思い出した。それはかつて茶の湯を稽古するとて、フランス焼の菓子器を見た時、特に舶来品のもつ味が現われているかと思ったが、白色の磁器に紫すみれの花を画き、根元から細長く二枚の葉を茎に添わせて曲線で、中央の取手にあしらえて、薄桃色の蓮華の花弁で空間の白色の色取りにしてあった。全体の形態は普通で、しかし上品な感じをもたせていた。私も安心して梶尾保母に渡すと、同氏も微笑してうれしそうに応接室に帰って行った。それからひとときしたころ、「役所の先生がお呼びです」と秋田校務員が知らせて来たから、私が応接室に行くと、係長先生は「調査は全部すみました。皆はよくやっておられましたで――ご苦労でした」といわれたので、うれしさと安心がこみあげてきて「ありがとうございました。それにしても先生方には、朝からの通しでさぞお疲れでございましたでしょう」と、感謝のあいさつをした。原校務員の持ってきたお茶を召しあがると、市役所へちょっと帰るとて三人とも何か話しながら行かれた。

私は職員室に走って帰り、皆に「ご苦労でしたなァ!! 先生らもよくやってくれていたと、申しておられましたで」と伝え、あらためてそのご苦労を重ねて感謝し、校務員らにも感謝した。それから一同は無事故であったことを喜び合い、愛日校の伊達教頭に電話して、無事故で終わったことを感謝しかつ、留守であった校長先生に、そのご親切に対しての感謝を依頼したのである。